

なかなおりのあじ

安田 彩乃やすだ あやの

きのう、お母さんとけんかをしました。げんいんは、わたしがおもちゃをかたづけなかつたことです。わたしの家では、ごはんの前にはへやをかたづけるやくそくになっています。でも、あそぶのにむちゅうで、ついわすれてしまうのです。毎日お母さんにちゅういさされているので、いやな気持ちも、少しずつたまってきていました。だからつい、

「お母さんだって、へやのかたづけがが手でしょ。」

と言ってしまった。言つた後、お母さんのハツとした顔が見えました。自分がわるいの、どうしてあんなことを言ってしまったんだらうと思つたら、すごくかなしくなつて、なみだがポロポロ出ました。お母さんも、おこりながらなきそうでした。

お父さんが、

「おこると、目がつり上がるところが、二人とも、よくにているね。」

と言つて、わらわせようとしたけれど、ちつともわらう気になれませんでした。お兄ちゃんも、心ばいそうに見ていたけれど、だまつてしゆくだいははじめました。

家の中がしんとして、まるで、うすぐらいどうくつの中に入つたみたいでした。

夕方、台どころからいいにおいがしました。おみそしるのにおいでした。

わたしは、そつとお母さんのよこに行きました。お母さんが、あやちゃんがむかし、お母さんは、おみそしるだけは上手だ

ねつて言つてくれたとき、ずつこけたけど、うれしかったなあ。」と言つて、あじみをさせてくれました。いつもとかわらない、おかあさんのあじでした。

わたしは、心がほかほかになって、ゆう気が出てきました。お母さんに、

「ごめんなさい。」

と言いました。お母さんが、

「なかなおりのおみそしるのあじは、いかがですか。」

と言つておどけるので、二人でふふとわらいました。

台どころのむこうで、お父さんが、にっこりわらっているのが見えました。わたしは、心ばいをかけてごめんなさい、と言うかわりに、できるだけ元気な声で、

「お父さん、ごはんができたよ。」

と言いました。

そばで聞いていたお兄ちゃんが、安心したように、

「おなかすいたなあ。」

と言つて、ドカツといすにすわつたので、みんな、大声でわらいました。

なかなおりをした後に、みんなで食べるおみそしるは、いつもよりあたたかくて、あまいあじがしました。

お母さん、いつもおいしいおみそしるを作つてくれて、ありがとう。